

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

① 第三者評価機関名

株式会社 ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：KANAME USHIKU		種別：就労継続支援 A 型	
代表者氏名：木村要一		定員（利用人数）：20名	
所在地：〒300-1234 茨城県牛久市中央5丁目10 セントラルプラネットビル 201			
TEL：029-886-3883		HP： kaname2021.com	
【施設・事業所の概要】			
開設年月日 令和5年11月1日			
経営法人・設置法人（法人名等）：株式会社 KANAME			
職員数	常勤職員：8名	非常勤職員：	名
専門職員	（専門職の名称）名		
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）	

③理念・基本方針

- ・私たちの仕事それは感動をクリエイトすることです。
- ・私たちは人に必要とされることの喜び、そして楽しさの共有に感動します。
- ・利用者、従業員と共に仕事をやり遂げていくことに感動します。
- ・私たちは人生の出会いに感動します。

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・一般就職を目指していくための支援

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和7年2月26日（契約日）～ 令和7年3月31日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（平成 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

利用希望者などに対して見学や実習については細やかな対応を定着させている

市の担当課や相談支援事業所などと連携を密にしており、見学や問い合わせについては迅速に対応するようにしている。また、説明用の資料として活用しているパンフレットには、①問い合わせ ②見学・体験利用の説明 ③体験・面談 ④内定 ⑤サービス等利用計画（相談支援事業所に依頼または自己作成） ⑥個別支援計画の作成 ⑦本契約：利用開始 などを分かりやすく掲載している。さらに入所適性を確認するための実習では、担当職員によって、能力や姿勢、意識などを詳しく把握することになっている。日程調整やオリエンテーション、面談や評価などを行い、関係機関に報告し通所決定を連絡することになっている。

経営層のリーダーシップによって概ね順調に事業を開始している

事業所は開業して概ね1年が経過したに過ぎないが、定員数の利用者を獲得するなど、概ね順調な事業が開始できていることがうかがえる。多様化する利用者のニーズを生活全体からとらえ、利用者の一人ひとりの意向・希望を実現することが事業所としての役割を果たすことと捉えている。そのためにも一人ひとりの利用者の障害の特性をとらえたコミュニケーションの工夫や、利用者の理解が求められている。職員の資質・能力向上によりサービス支援の質を向上させることはもちろんのこと、管理者がリーダーシップを発揮し組織一体として利用者主体の支援ができる体制づくりに取り組んでいることが成果につながっている。

多様な作業提供と段階的な実践支援により一般就労につなげる支援体制が整えられている

事業所では、継続的なアセスメントと個別支援計画に基づき、利用者の特性や希望を丁寧に把握し、PC作業やネット出品、封入、フードロス販売、施設外就労など多様な作業から最適な内容を選定している。これらは月1回の面談を通じて更新され、職員間で協議のうえ支援方針が共有されている。また、賃金は契約時に書面で説明、同意を得たうえで適切に支給されており、毎月開催される「賃金向上達成ミーティング」では、工賃の改善や販路拡大に向けた意見交換も行われている。さらに、パソコン講座やマナー講座、企業見学、面接同行など段階的かつ実践的な支援が充実しており、令和6年度には6名の利用者が一般就労へ移行しており、支援の成果が明確に示されている。

◇改善を求められる点

障害特性をさらに理解を深める機会を充実させることが望まれる

各種の研修を設けて職員には受講を促している。ハンドブックの読み合わせをはじめ、講師を招聘して開催している内部研修や外部研修への参加も促している。また、意思表示や自己決定、自発性を発揮することが難しい利用者も存在するため、コミュニケーションの工夫や日頃の観察により気持ちを読み取りながら支援している。さらに、障害者支援に関する研修などへの職員の参加を充実させ、専門性の高い知識を習得してアドバイスを充実させることを目指されたい。

年度事業計画を策定し、進捗状況を確認しながら推進する仕組みを設けられたい

予算上（概算）の単年度計画は設定しているが、中・長期計画に基づいた単年度事業計画は策定されていない。よって、①事業所の運営方針 ②事業方針 ③支援方針 ④計画・目標 ⑤人材育成 ⑥運営上のリスク管理 ⑦事業収支予算などの項目を網羅する具体的な単年度の事業計画の策定が求められる。月例ミーティングなどの機会を通じて、事業所全体として事業の進捗状況を検証し、職員の意識を高揚させることが望まれる。

機能訓練的な要素を取り入れ、心身のリフレッシュや基礎体力の維持に向けた取り組みが望まれる

事業所では、利用者の来所時に毎回声かけを行い、顔色や体調を丁寧に確認することで、日々の健康状態を的確に把握している。体調に変化があった際には、速やかに家族や関係機関と連絡を取り、適切な対応が行われている。医療的支援が必要な場合にも、アセスメントや診療情報提供書などを通じて事前に情報を把握し、個別の支援体制を整えている。また、服薬については利用者の自主管理を基本としつつ、職員による声かけや見守りで安全性が確保されている。一方で、日中活動に体操などの機能訓練的な要素が導入されておらず、心身のリフレッシュや基礎体力の維持に向けた取り組みが望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

私たちでは気づけなかった細かい部分まで指摘していただき、これから事業所を運営していくにあたり改善点が見出せた。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）